

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400331		
法人名	有限会社 エフヴェール		
事業所名	グループホーム エフヴェール		
所在地	高知県吾川郡いの町天王北4丁目8番地7		
自己評価作成日	平成31年4月11日	評価結果 市町村受理日	令和元年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、民家改修型のアットホームなグループホームで、ホールには利用者と職員とで作った壁画、飾り物、習字、カレンダーなどを飾って、その時々季節が感じられるようにしている。植物好きの利用者は庭のプランターに野菜や花を植えて水やりなどをして育て、手作業の得意な利用者には折り紙で壁画の材料を作ってもらったりと、時間が掛かっても職員と一緒にするようにして、その人らしく暮らせる、個別支援を心がけている。

食事には季節の野菜、果物などを使い、地域住民からもらったタケノコ、フキ、イタドリなどを皆で皮はぎをしながら、懐かしい話しをしている。月一回は全員で花見や外食に出かけている。

利用者の思いや希望を職員間で情報共有し、楽しく暮らせる工夫をしている。また、近所の施設の認知症カフェ、コミュニティーセンターの体操、サロン、天王納涼祭など、地域の行事にも積極的に参加している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&jkyosyoCd=3972400331-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	令和元年5月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街にある民家を改築した2階建ての事業所周辺には、公園、美容院、診療所、スーパー、地域コミュニティーセンター等があって利便性が高い。職員は、利用者一人ひとりに合わせて穏やかに、その人らしく暮らすことができるようケアに取り組み、家庭的な雰囲気の中で共同生活をしている。

利用者は、職員と一緒に習字や手作業、調理等、自分ができることに取り組んでいる。外出の機会も多く、気候の良い季節には、近隣の公園や事業所周辺での散歩を日課として、近所の人とは挨拶を交わし、野菜等のおすそ分けがもらえる関係ができている。地区納涼祭や地域コミュニティーセンターで行われる健康体操や歌、レクリエーション等に参加して、地域との交流の機会も多い。また、毎月車で外出して、花見やレストランでの外食を楽しんでいる。

管理者をはじめ職員のチームワークは良く、全員で利用者一人ひとりの自立を促進し、その人らしさを失わない暮らしを目指したケアの提供に努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えるという、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、事業所内の見やすい所に掲示して、管理者、職員とも共有している。職員会では、ケアへの実践を話し合っている。</p>	<p>事業所を利用者と職員が一緒に築く「家庭」とし、利用者本位の支援と地域に根ざした生活を目指すという理念を掲げ、毎朝のミーティングで確認して共有するとともに、ケアでの実践に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>月3、4回、地域のコミュニティセンターで体操や歌、茶話会に参加している。地域の夏祭りに参加したり、ボランティアの訪問を受けたりして、地域との交流に努めている。地域の一員として町内会、自治会に加入し、月1回公園の清掃を行っている。</p>	<p>町内会に加入し、各種地域行事に参加するほか、月1回、職員と利用者で自主的に近隣の公園の清掃をしている。利用者は、地域住民と挨拶を交わし、近隣住民からは野菜のおすそ分けがある関係ができています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>月1回、歌とギターの弾き語りや利用者と共に公園の草引き、ゴミ拾いをする取り組みをしている。花壇の水やりや散歩時に近所の人と挨拶したりして、利用者と交流している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、報告や情報交換したことをサービス向上に活かしている。家族からの相談、意見など、些細なことでも対応してケアの向上に活かしている。</p>	<p>構成メンバーは利用者、家族、民生委員、消防職員、町福祉課職員、事業所職員となっているが、実際の参加者が少ない。協議内容は事業所からの報告が中心で、家族には事業所通信で報告している。</p>	<p>当日の参加メンバーを増やし、外部評価結果等の事業所課題や、地域からの協力が必要な事項等を議題として、外部からの意見が事業所運営に活かされることを期待する。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町福祉課には積極的に出向く機会を持っている。地域包括支援センターとは、密に連絡を取り合い、利用者入退所にも協力してもらっている。町の研修などにも参加し、サービスの向上に活かしている。</p>	<p>町担当者とは、相談や情報交換ができる関係にある。また、町主催の研修会には積極的に参加しており、運営推進会議にも町担当者が参加し、協力関係ができています。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日ごろから代表者、職員全員が身体拘束の内容、弊害を認識し、身体拘束をしないケアを実施している。玄関、自室ドアなどの施錠についても身体拘束である事を認識し、安全を確保しながら自由な暮らしを支援するように取り組んでいる。</p>	<p>外部研修には管理者が参加して職員会で伝達し、全員で身体拘束をしないケアを実践している。日中玄関には施錠せず、外出傾向の強い利用者については外出習慣や傾向を把握して、玄関チャイムで確認し、職員と一緒に寄り添った対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止関連法について研修を受講し、職員会で学ぶ機会を持って、職員による虐待を徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者がなく、日常生活自立支援事業や成年後見制度の支援はしていないが、生活保護受給者の利用料の支払いや、預金通帳の管理は必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書は契約の際に口頭説明し、利用者や家族の不安、疑問には十分な説明を行って理解、納得を得たうえで署名捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見、要望を聞き、運営推進会議で出された意見等を前向きに捉え、サービスの質の向上に反映させている。言うことをためらっていると思われる利用者や家族には心配りをして、意見、要望を出してもらえるように配慮している。	利用者の言動や表情から思いや意向を把握し、日々、職員と管理者で情報共有をしている。家族からは、電話や来所時に、個別に意見や要望を聞いている。年2回の家族会議では、家族だけで話し合いのできる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に一度の職員会で職員の意見、提案を十分に聞き、全員で話し合って運営に反映させている。毎日の朝礼でも、情報交換と意見を出す時間を設けている。	職員会や日常業務の休憩時に、管理者は職員から運営に関する気づきや提案等の意見を聞く機会を設けており、個別ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持てる職場を目指している。職員の努力や実績、勤務状態などを把握するとともに、職員処遇改善加算も導入して、職員処遇への反映に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づき2ヶ月に一度の所内研修を行い、外部研修情報は職員全員に提供して、研修受講機会の確保に努めている。介護福祉士資格を取得する支援も行き、取得した職員もいる。研修受講後は職員は報告書を提出し、職員会で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム連絡協議会への参加や、地域のサロン、認知症カフェへの参加、他のグループホームとの交流や、勉強会に積極的に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の納得を得たうえで、受け入れている。認知症により自己表現に支障がある場合であっても、本人と向き合いながら本人の声に耳を傾け、本人の気持ちを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になって話しをしっかりと聞き、受け止めながら関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に基本情報を聞き取り、本人、家族等の実態や要望を把握して、その時点で何が必要か見極め、できることは速やかに対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と一緒に掃除、モップがけをしたり、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえなどをしたり、テレビを一緒に観たりして、ともに笑ったりする関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会、外出、外泊、通院等、家族に可能な限り行ってもらうよう、働きかけている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の行事などに積極的に参加し、知人に会って話しができるように支援をしている。家族に電話をする際には、後で必ず利用者が電話で話せるようにしている。手紙、プレゼントが届いたときも、電話でお礼が言えるようにしている。</p>	<p>本人、家族に意向を確認して、馴染みの美容院の利用等、家族と一緒に馴染みの関係の継続支援をしている。また、事業所周辺の近隣住民との顔馴染みとなり、交流することで、新たな馴染みの関係が築かれている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士、家事の手伝いをし、テレビと一緒に観たり、レクリエーションを一諸に楽しんだり、散歩に行くときには手をつないだりしている。車いすの利用者を職員と一諸に押してあげたりすることもあり、職員は見守りと支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も運営者、職員は見舞いに行き、思い出のミニアルバムと一緒に観たり、相談があれば可能な限り相談に応じるように努めている。また、家族から連絡を受け、葬儀に参列することもある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、情報共有し、本人の視点に立って考え、支援に取り組んでいる。特に入所時には本人、家族から丁寧に話しを聞き、意向に沿えるようにしている。</p>	<p>入所時に本人、家族から希望を聞き、職員で情報共有をしている。日々の生活や会話の中で出た希望や意向は職員間で常に情報共有をし、毎月の担当者会で検討してケアプランに反映して、本人の意向に沿ったケアに取り組んでいる。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、職員や運営者が家族等と馴染みの関係を築き、把握したことを毎日のサービスに活かすように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、引継ぎや申し送りノートで本人の一日の流れや心身状態を把握し、本人の持っている強み、弱みを発見することに努め、本人に適した支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認して、主治医、看護師、職員の意見も聞いて、本人の自立支援を主体としてアセスメント、モニタリングを繰り返して、日々新たな気持ちで介護計画を作成している。	利用者毎に担当職員を決めて毎月モニタリングをし、本人、家族の意向を踏まえて職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。3ヶ月に一度見直すとともに、利用者の心身に変化時等があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員からはケアの気づきを書いてもらっている。情報共有しながら、より良いケアが出来るよう日々記録を確認し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイ、デイサービスの多機能性の認可はなし。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の体操、歌、サロンに継続して参加をし、防災訓練では地域の力を借りて、安心できる暮らしを楽しむことができるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時を除いて本人、家族の希望のかかりつけ医を受診し、地域の歯科、診療所から往診してもらうなどの支援をしている。緊急時には家族、本人の希望をする医療機関を確認し、受診している。	本人、家族の希望を確認し、内科は全員協力医療機関から月2回の往診を受けている。眼科等の専門医には家族が同行受診し、事業所が作成した情報提供書を家族に手渡している。また、受診結果は家族から情報を得て、職員で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員を配置しており、日常の健康管理や、往診、受診などで医療支援を行うとともに、24時間いつでも連絡が取れる医療連携体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した利用者への支援も含め、家族とともに主治医、病院の相談員、看護師との連携を密にして、早期退院につながるよう支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから本人、家族に重度化した場合の基本的な対処についての意向を確かめるようにしている。本人が重度化した際には、職員全体で話し合い、家族、医療関係者と連携を図りながら支援をしている。	看取りに関する指針を作成し、入所時に説明しているが、これまでに看取りの実績はない。事業所の構造上、歩行が困難になると2階での生活が難しく、家族と話し合い、老人保健施設に入所したりしている。重度化の場合には、利用者、家族の意向を確認して、医療関係者と連携した支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生に備え、職員全員で応急手当、初期対応の訓練を受け、定期的に話し合っている、研修の機会があれば、参加している。転倒防止のためのセンサーアラームも使用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、水害、防火の訓練を年2回実施し、災害時の具体的な対応を話し合っている。日ごろから訓練時には近隣住民に協力を依頼し、参加を得ている。非常用の飲料水、食料、トイレ、防火頭巾等を備え、備蓄点検表を作成して、3ヶ月毎に現物確認をしている。	消防署員の指導のもと、防災訓練を年2回実施している。地域住民の参加もあり、利用者全員の避難訓練をしている。非常用食料品等の備品は3日分以上あり、日ごろから点検をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊敬と権利の尊重は、職員全員で常に確認している。本人の人格を傷つけないように気配り、目配りをして、対応するように努めている。	管理者が外部研修に参加し、職員会で伝達研修を行って職員全員の理解を図っている。日常の介護場面での声かけ等で気になる場合は、その都度注意し合って、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重しながら働きかけをしているが、安全面、業務上のゆとりがなく、本人の思いに沿えないこともある。そのときには、できるだけ丁寧に説明して、納得してもらおうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などは別として、その日の過ごし方は原則として本人の望むようにしている。本人と家族の思いが違う場合もあるが、本人と何度でも話し合い、支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わない服を着ているときには、適切に誘導する。美容院は家族が連れて行ったり、訪問美容室を利用したりして、本人と家族の希望に沿うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できること、できないことがあり、本人の無関心などで準備や後片づけを一緒にする利用者は限られているが、一応は全員に声掛けをするようにしている。昼食は利用者、職員が同じ物を食べ、食事の話題で話がはずむこともある。	利用者の意向に沿って事業所で献立を作り、食材の買い出しをしている。季節感のある食事内容に配慮している。新聞広告を見て、献立を提案する利用者もいる。下ごしらえや食事の準備、後片付けは、できる範囲で職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないようチェック表で確認している。体調に合わせ、本人の好みの物や健康飲料水を摂取する等、医師と看護師と協議して、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に、職員の声掛けや見守りで口腔ケアをしている。毎晩、歯磨きの仕上げには洗口液を使用している。月1回の歯科医往診があり、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗があってもすぐにおむつ使用にはつなげず、おむつ使用の人も一人ひとりの排泄のパターン、習慣を確認してトイレ誘導をしたり、ポータブル誘導をしている。できるだけトイレ、ポータブルでの排泄の自立を促している。	トイレでの排泄を基本としており、一人ひとりの記録で排泄パターンを把握し、利用者のほとんどが日中は布パンツと尿パット、夜間はリハビリパンツと尿パット使用で、紙おむつは使用していない。入所時に紙パンツ利用であった利用者が、布パンツ使用に改善できた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や便秘が及ぼす影響を理解し、運動、食事の工夫をしたり、水分摂取を勧めたりしている。便秘がちな利用者には、牛乳に青汁を混ぜたりして、自然に便が出るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴可能としている。利用者に強制をしないで、本人の意向で入浴するように支援している。入浴拒否があっても、2日に一度は入浴するよう声掛けをしている。	希望すれば毎日入浴可能だが、ほとんどの利用者は2日に一度午後からの入浴となっている。入浴拒否の強い利用者には、声かけやきっかけ作り等の工夫をすることで、週2回は入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は原則自由としており、自室でテレビを観たりする利用者もいるが、昼夜逆転傾向のある利用者には、ある程度誘導をして、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については個人別に管理するとともに、受診記録や調剤記録から目的、用法、用量、副作用などを理解して、飲み忘れや誤薬をしないよう、職員2人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体的に難しい利用者もいるが、可能な限りしたいことをして、生活意欲が増進するよう気配りをしている。洗濯干し、洗濯たたみ、食事の下ごしらえや準備、ぬり絵や貼り絵など、本人の関心や能力に応じて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい春や秋には、事業所周辺や、近隣の公園に出かける機会が多い。また、利用者の意見を聞いて毎月車で出かけ、花見や外食をするなどの外出支援をしている。	気候の良い日には、日常的に事業所周辺や近くの公園まで散歩に出かけている。毎週コミュニティセンターの行事があり、利用者は交代で参加している。月1回、車で外出の日を設けて、花見で季節を感じたり、外食をする等、楽しみのある生活ができるよう外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で預かっているが、近所のスーパーへ欲しい物を買に行ったりして、自分で支払う支援をしている。月末には、領収書と小使い収支を家族に郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけるようにしており、家族から電話があった際にも、利用者と代わって家族と話しをしてもらうようにしている。手紙を書く利用者はいないが、書きたいという利用者がいれば支援するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には生活感、季節感が感じられるように利用者と職員で作った壁画や季節の飾り物などを飾り、できる限りリラックスできる雰囲気づくりをしている。庭にはいつも季節の野菜、花を植え、利用者が水やり、収穫をして、職員と利用者で楽しんでいる。	事業所は民家を改築しており、2階は全居室、1階は居室2部屋と共用空間となっている。利用者は1階の居間兼食堂で日中過ごし、壁画や飾り物で季節を感じ、利用者の習字等の作品も展示している。明るく清潔感があり、居心地良く生活ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手狭だが、可能な限り居場所づくりに配慮している。利用者はテレビの前のソファで話しをしたり、他の利用者の部屋を訪ねて楽しく雑談したりしている。一人自室でテレビを観たりして過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の能力と家族の事情に応じて可能な限り使い慣れた物を持って来てもらい、自身自身の部屋として落ち着ける工夫をしている。利用者の担当職員が利用者との服の入れ替えや、危険な物がないかなどを確認して、安心して過ごせるような工夫をしている。	地震時の安全対策を考え、居室にはタンスは持ち込んでいないが、家族写真等、各々好みのもの飾って居心地よく過ごせる工夫をしている。住宅街にある事業所居室の窓からは、人々の日々の暮らしが窺え、社会とのつながりが実感できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の確認のため、トイレ、風呂と書いた紙をドアに貼り、自室の入り口にも本人の名前を書いた物を張ってある。トイレ、階段、廊下すべてに手摺があり、事業所内を安全に移動できるよう工夫をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				